

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| | | | |
|------------|--|-----|-----|
| 科目番号・科目名 | 1職務の理解 | 時間数 | 6時間 |
| 到達目標 | 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について。介護職どのような形で、そのような仕事を行なうのか、具体的なイメージをもって実感し以降の研修に実践的に取り組めるようになる | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 1-1職務の理解 | <p>(1)多様なサービスの理解</p> <p>○介護保険サービス(居宅、施設) ○介護保険外サービス</p> <p>○介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携</p> <p>(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解</p> <p>○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容</p> <p>○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ</p> <p>○ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種協働</p> <p>(3)介護職員初任者研修の位置づけ</p> | 6 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター 視聴覚教材(DVD) | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| 科目番号・科目名 | 2. 介護における尊厳の保持・自立支援 | 時間数 | 9時間 |
|----------------|--|-----|-----|
| 到達目標 | 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解している。 | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 2-1人権と尊厳を支える介護 | (1)人権と尊厳の保持 ○個人としての尊重 ○エンパワメントの視点 ○「役割」の実感 ○尊厳のある暮らし ○利用者のプライバシーの保護 (2)ICF ○介護分野におけるICF (3)QOL ○QOLの考え方 生活の質 (4)ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方 (5)虐待防止・身体拘束禁止 ○高齢者虐待防止法 ○高齢者の養護者支援 ○身体拘束禁止 (6)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業 | 7 | |
| 2-2自立に向けた介護 | (1)自立に向けた介護 ○自立・自律支援 ○残存能力の活用 ○動機と欲求 ○意欲を高める支援 ○個別性/個別ケア (2)介護予防 ○介護予防の考え方 ○重度化防止 | 2 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| 科目番号・科目名 | 3.介護の基本 | 時間数 | 6時間 |
|---------------------------|---|-----|-----|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。 | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 3-1 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | <p>(1)介護環境の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○訪問介護と施設介護サービスの違い ○地域包括ケアの方向性 <p>(2)介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○根拠のある介護 ○重度化防止・遅延化の視点 ○自立した生活を支えるための援助 ○利用者主体の支援体制 ○多職種からなるチーム ○チームケアの重要性 ○事務所内のチーム <p>(3)介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> ○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ○異なる専門性をもつ多職種の理解 ○チームケアにおける役割分担 ○介護支援専門員 ○サービス提供責任者 ○看護師等とチームとなり利用者を支える意味 | 3 | |
| 3-2 介護職の職業倫理 | <p>(1)介護サービスの公共性と職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護職としての社会的責任 ○専門性の倫理の意義 <p>(2)利用者・家族に対する責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プライバシーの保護・尊重 <p>(3)社会に対する責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等) | 1 | |
| 3-3 介護における安全の確保とリスクマネジメント | <p>(1)介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ○リスクとハザード <p>(2)事故予防安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リスクマネジメント ○分析の手法と視点 ○事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等) ○情報の共有 <p>(3)感染対策のための基本的知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断) ○「感染」に対する正しい知識 ○手洗いの基本 ○手洗い・うがいの励行 ○感染症対策 | 1 | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目の特徴

| 科目番号・科目名 | 3.介護の基本 | 時間数 | 6時間 |
|------------|---|-----|-----|
| 3-4 介護職の安全 | (4)健康管理とストレスマネジメント ○介護職の健康管理が介護の質に影響 ○腰痛の予防に関する知識 ○ストレスマネジメント | | 1 |
| | | | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| 科目番号・科目名 | 4.介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | 時間数 | 9時間 |
|------------------------|---|-----|-----|
| 到達目標 | 介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 4-1介護保険制度 | (1)介護保険制度創設の背景、目的および動向 ○予防重視型システムへの転換 ○地域包括支援センターの設置 ○地域包括ケアシステムの推移 (2)介護保険制度のしくみの基本的理解 ○保険制度としての基本的仕組み ○介護給付と種類 ○予防給付 ○要介護認定の手順 (3)制度を支える組織・団体の機能と役割、財源 ○指定介護サービス事業者の指定 ○財政負担 (4)ケアマネジメント ○ケアマネジメント | 4 | |
| 4-2 医療との連携とリハビリテーション | (1)医行為と介護 ○医行為と介護 (2)医療と介護の連携 ○施設における看護と介護の役割・連携 ○訪問看護 (3)リハビリテーション職種との連携 ○リハビリテーションの理念 | 2 | |
| 4-3 障害者総合支援制度およびその他の制度 | (1)障害者福祉制度の理念 ○ICF(国際生活機能分類) ○障害の概念 (2)障害者総合支援制度のしくみと基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業 | 3 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| 科目番号・科目名 | 5.介護におけるコミュニケーション技術 | 時間数 | 6時間 |
|-------------------------|--|-----|-----|
| 到達目標 | 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき(とるべきでない)行動例を理解している。 | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 5-1 介護におけるコミュニケーション | <p>(1)介護におけるコミュニケーションの技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ○傾聴 ○共感の応答 ○言語的コミュニケーションの特徴 ○非言語的コミュニケーションの特徴 ○信頼関係の形成 <p>(2)利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ○信頼関係の形成 ○アセスメントの手法とニーズ・デマンドの違い ○利用者の感情に共感する ○利用者の思いを把握する ○意欲低下の要因を考える ○家族の心的理解 ○家族へのいたわりと励まし ○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする <p>(3)利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ○失語症に応じたコミュニケーション技術 ○構音障害に応じたコミュニケーション技術 ○認知症に応じたコミュニケーション技術 | 3 | |
| 5-2 介護におけるチームのコミュニケーション | <p>(1)観察、記録、情報伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護における記録の意義・目的 ○利用者の状態を踏まえた観察と記録 ○ヒヤリハット報告書 ○介護に関する記録の種類 ○個別援助計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等) ○5W1H ○報告の留意点 ○連絡の留意点 ○相談の留意点 <p>(2)コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語的コミュニケーションの特徴 ○非言語的コミュニケーションの特徴 ○会議 ○情報共有の場 ○役割認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼) ○ケアカンファレンスの重要性 | 3 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| 科目番号・科目名 | 6. 老化の理解 | 時間数 | 6時間 |
|----------------------|---|-----|-----|
| 到達目標 | 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。 | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 6-1老化に伴うこととからだの変化と日常 | (1)老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○喪失体験 ○精神的機能の変化と日常生活への影響 (2)老化に伴う体の変化と日常 ○身体的機能の変化と日常生活への影響 ○防衛反応(反射)の変化 ○筋・骨・関節の変化 ○咀嚼機能の低下 ○体温維持機能の変化 | 3 | |
| 6-2高齢者と健康 | (1)高齢者の疾病と生活上の留意点 ○筋力の低下と動き・姿勢の変化 ○骨折 ○関節痛 (2)高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患) ○循環器障害の危険因子と対策 ○誤嚥性肺炎 ○老年期うつ病症状(強い不安感 焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症) 高齢者は感染症にかかりやすい ○病状の小さな変化に気づく視点 | 3 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| 科目番号・科目名 | 7. 認知症の理解 | 時間数 | 6時間 |
|--------------------------|--|-----|-----|
| 到達目標 | 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解している | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 7-1認知症を取り巻く状況 | (1)認知症ケアの理念 ○認知症ケアの視点(できることに着目する) ○パーソン・センタード・ケア ○認知症の進行に合わせたケア | 1 | |
| 7-2医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | (1)認知症の概念 ○認知症の定義 ○せん妄の症状 ○もの忘れとの違い (2)認知症の原因疾患とその病態 (3)原因疾患別のケアのポイントと健康管理 ○認知症の中核症状 ○認知症の行動・心理症状(BPSD) ○薬物療法 ○治療 ○認知症に使用される薬 ○健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア) | 1 | |
| 7-3認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 | (1)認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ○認知症の行動・心理症状C(BPSD) ○認知症の中核症状 ○不適切なケア ○生活環境で改善 (2)認知症の利用者への対応 ○プライドを傷つけない ○本人の気持ちを推察する ○相手の世界に合わせる ○すべての援助行為がコミュニケーションであるとする ○失敗しないような状況をつくる ○身体を通じたコミュニケーション ○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する ○認知症の進行に合わせたケア ○健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア)生活環境で改善 | 3 | |
| 7-4家族への支援 | (1)認知症家族介護者の現状の理解 ○介護負担の軽減(レスパイトケア) (2)認知症をもつ人の声、そして家族の声 ○認知症の受容課程での援助 ○介護負担の軽減(レスパイト) | 1 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| 科目番号・科目名 | 8.障害の理解 | 時間数 | 6時間 |
|---|---|-----|-----|
| 到達目標 | 障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 8-1障害の基礎的理解 | (1)障害の概念とICF ○ICFの考え方 ○ICFの分類と医学的分類 (2)障害者福祉の基本理解 ○ノーマライゼーションの概念 | 1 | |
| 8-2障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | (1)身体障害 ○視覚障害 ○聴覚・平衡機能障害 ○音声・言語・咀嚼障害 ○肢体不自由 ○内部障害 (2)知的障害 ○知的障害 (3)精神障害 ○統合失調症・気分(感情障害)・依存症などの精神疾患 ○高次脳機能障害 ○広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4)強度行動障害 (5)難病 | 1.5 | |
| 8-3家族の心理、関わり支援の理解 | (1)家族への支援 ○障害の理解・障害の受容支援 ○介護負担の軽減 | 0.5 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| | | | |
|------------------------|--|-------|------|
| 科目番号・科目名 | 9.こころとからだのしくみと生活支援技術 | 合計時間数 | 75時間 |
| 項目 | 9-1、9-2、9-3 | 項目時間数 | 12時間 |
| 到達目標 | <p>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる</p> <p>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 9-1介護の基本的な考え方 | <p>(1)介護の基本的な考え方</p> <p>○ICFの視点に基づく生活支援 ○法的根拠に基づく介護</p> <p>○理論に基づく介護 ○我流介護の排除</p> <p>(2)重度化防止の視点</p> | 3 | |
| 9-2介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | <p>(1)高齢者の心理</p> <p>○からだの状態がこころに与える影響 ○こころのもち方が行動に与える影響 ○学習と記憶の基礎知識 ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因</p> <p>(2)自己実現と生きがいづくり</p> <p>○自己概念と生きがい ○感情と意欲の基礎知識</p> | 4 | |
| 9-3介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | <p>(1)人体の名称とはたらき</p> <p>○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ○骨・関節・筋に関する基礎知識</p> <p>(2)運動動作に関する基礎知識</p> <p>○ボディメカニクスの活用</p> <p>(3)神経系に関するからだのしくみ</p> <p>○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識</p> <p>○自律神経と内部器官に関する基礎知識</p> <p>○こころとからだを一体的に捉える</p> <p>(4)バイタルチェック</p> <p>○利用者の様子の普段との違いに気づく視点</p> | 5 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| | | | |
|----------------------------|---|-------|------|
| 科目番号・科目名 | 9.こころとからだのしくみと生活支援技術 | 合計時間数 | 75時間 |
| 項目 | 9-4、9-5、9-6 | 項目時間数 | 12時間 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | | |
| 9-4生活と家事 | (1)家事と生活の理解 ○生活歴 ○自立支援 ○予防的な対応 ○価値観 ○主体性・能動性を引き出す ○多様な生活習慣 (2)家事援助に関する基礎知識と生活支援 ○生活歴 ○価値観 ○自立支援 ○予防的な対応 | | 4 |
| 9-5快適な居住環境整備と介護 | (1)住環境整備 ○家庭に多い事故 ○バリアフリー ○住宅改修 ○福祉用具貸与 (2)福祉用具の活用 ○福祉用具貸与 | | 2 |
| 9-6整容に関連したこころとからだの自立に向けた介護 | (1)整容に関連する基礎知識 ○整容行動 ○身じたく ○身体状況にあわせた衣類の選択、着脱 (2)整容の介護 ○洗面の意義・効果 ○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 (3)衣類の着脱の介護 ○身体状況に合わせた衣類の選択、着脱 | | 6 |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター 視聴覚教材(DVD) ベッド | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| | | | |
|-----------------------------------|--|-------|------|
| 科目番号・科目名 | 9.こころとからだのしくみと生活支援技術 | 合計時間数 | 75時間 |
| 項目 | 9-7 | 項目時間数 | 11時間 |
| 到達目標 | <p>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる</p> <p>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 9-7移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | <p>(1)移動・移乗の介護の基本</p> <p>○残存能力の活用・自立支援 ○利用者と介護者の双方が安全で</p> <p>(2)体位・姿勢の基礎知識</p> <p>○残存能力のの活用・自立支援 ○利用者の自然な動きの活用</p> <p>(3)移乗を行う際の環境整備</p> <p>(4)移動・移乗介助に関連する福祉用具</p> <p>○移動介助(車いす、歩行器、杖等)</p> <p>(5)心身の状態に合わせた移乗介助</p> <p>○ボディメカニクスの基本原理 ○重心・重力の働きの理解</p> <p>○移乗介助の具体的方法(車いす移乗の方法、全面介助での車いす間の移乗、全面介助でのベッド・車いす・洋式トイレ間の移乗)</p> <p>(6)移動を行う際の環境整備</p> <p>○残存能力の活用・自立支援</p> <p>(7)移動介助と留意点</p> <p>○移動介助の具体的な方法、移動介助(車いす、歩行器、つえ等)</p> <p>○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法</p> | 11 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター 視聴覚教材(DVD) ベッド 車いす 歩行器 杖 ポータブルトイレ アイマスク | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| | | | |
|-------------------------------------|---|-------|------|
| 科目番号・科目名 | 9.こころとからだのしくみと生活支援技術 | 合計時間数 | 75時間 |
| 項目 | 9-8、9-9 | 項目時間数 | 16時間 |
| 到達目標 | <p>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる</p> <p>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 9-8食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | <p>(1)食事に関する基礎知識</p> <p>○食事をする意味 ○食事のケアに対する介護者の意識</p> <p>○咀嚼・嚥下のメカニズム</p> <p>(2)食事の介護</p> <p>○誤嚥性肺炎の予防 ○空腹感 ○満腹感 ○好み</p> <p>○食事の環境整備(時間・場所等)○低栄養の阻害 ○脱水の弊害</p> <p>○食事と姿勢 ○食事に関した福祉用具の活用と介助の方法</p> <p>(3)口腔ケアの支援技術</p> <p>○口腔ケアの定期 ○誤嚥性肺炎の予防</p> | 7 | |
| 9-9入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | <p>(1)入浴介助の基本</p> <p>○羞恥心や遠慮経配慮 ○体調の確認</p> <p>(2)入浴介助に関連する福祉用具</p> <p>(3)入浴介助を行なう際の留意点</p> <p>○体調の確認 ○羞恥心や遠慮への配慮</p> <p>(4)入浴介助</p> <p>○羞恥心や遠慮への配慮</p> <p>(5)清拭介助</p> <p>○全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方) ○陰部洗浄(臥床状態での方法) ○足浴・手浴・洗髪 ○体調の確認</p> | 9 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター 視聴覚教材(DVD) ベッド 車いす 自助具 とうみ剤 口腔ケア用品 個別浴槽 ストレッチャー浴槽 入浴用品 | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| | | | |
|---------------------------------|---|-------|------|
| 科目番号・科目名 | 9.こころとからだのしくみと生活支援技術 | 合計時間数 | 75時間 |
| 項目 | 9-10、9-11 | 項目時間数 | 11時間 |
| 到達目標 | <p>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる</p> <p>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 9-10排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | <p>(1)排せつ介助の基本</p> <p>○排せつとは ○身体面(整理面)での意味 ○社会的な意味</p> <p>○プライド・羞恥心 ○心理面での意味 ○おむつ使用の弊害</p> <p>○おむつは最後の手段 ○プライバシーの確保 ○排せつ障害が日常生活上に及ぼす影響 ○便秘の予防(水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ)</p> <p>○排せつケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連</p> <p>(2)排せつの介護</p> <p>(3)排せつの介助</p> <p>○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法</p> | 6 | |
| 9-11睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | <p>(1)睡眠に関する基礎知識</p> <p>○安眠のための介護の工夫</p> <p>(2)睡眠の介護</p> <p>○安眠のための介護の工夫 ○環境の整備(温度や湿度、光、音よく眠るための寝室)○安楽な姿勢・褥瘡予防</p> <p>(3)その他の福祉用具</p> <p>○安楽な姿勢・褥瘡予防</p> | 5 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター 視聴覚教材(DVD) ベッド 車いす 排せつ用品 体位保持用クッション | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| | | | |
|---------------------------------|--|-------|------|
| 科目番号・科目名 | 9.こころとからだのしくみと生活支援技術 | 合計時間数 | 75時間 |
| 項目 | 9-12 | 項目時間数 | 3時間 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 9-12死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 | <p>(1)老いと衰えの理解とその対応</p> <p>○ターミナルケアとは ○生活を支える6つの視点 ○高齢者の死に至る過程【高齢者の自然死(老衰)、がん死】</p> <p>○「くぼみ」と「傾き」 ○医療との連携</p> <p>(2)ターミナルケアの実際</p> <p>○多職種間の情報共有の必要性 ○介護従事者の基本的態度</p> <p>○臨終が近づいたときの兆候と介護</p> <p>○生活情報 ○回復可能性 ○看取りまでの流れ ○グリーフケア</p> | 3 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| | | | |
|----------------|--|--------|------|
| 科目番号・科目名 | 9.こころとからだのしくみと生活支援技術 | 合計時間数 | 75時間 |
| 項目 | 9-13、9-14 | 項目時間数 | 10時間 |
| 到達目標 | <p>・介護技術の根拠となる人体の構造に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助の介護が実施できる</p> <p>・尊厳を保持し、その人の自立を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域での生活を支える介護技術や知識を習得する</p> | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 9-13介護課程の基礎的理解 | <p>(1)介護課程の基礎的理解</p> <p>○介護課程の目的・意義・展開</p> <p>○介護課程とチームアプローチ</p> <p>(2)介護課程の展開の実際</p> | 4 | |
| 9-14総合生活支援技術演習 | <p>(1)演習1 要介護1の事例</p> <p>(2)演習2 要介護3の事例</p> | 3 3 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |

介護員養成研修(通学)介護職員初任者研修過程シラバス・科目的特徴

| | | | |
|----------------------------|---|-------|------|
| 科目番号・科目名 | 10.振り返り | 合計時間数 | 75時間 |
| 項目 | 10-1、10-2 | 項目時間数 | 4時間 |
| 到達目標 | <p>・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、終業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る</p> | | |
| 項目番号・項目名 | 内容 | 時間数 | |
| 10-1振り返り | <p>(1)学習到達度の振り返り</p> <p>○研修を通して学んだこと ○根拠に基づく介護についての要点 (利用者の状態像に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)</p> <p>○今後継続して学ぶべきこと</p> | 2 | |
| 10-2就業への備えと研修終了後における継続的な研修 | <p>(1)質の向上と人材育成</p> <p>○継続的に学ぶべきこと</p> <p>(2)事業所等における実例に学ぶ</p> <p>○研修終了後における継続的な研修について</p> <p>○具体的にイメージできるような事業所等における実例 (Off-JT、OJT)を紹介</p> | 2 | |
| 使用する機器・備品等 | パソコン プロジェクター | | |
| 使用するテキスト | 介護職員初任者研修テキスト 一般財団法人 長寿社会開発センター | | |
| 備考 | | | |